

### 受賞作品 超現実的な幻想感



美術  
坂田 哲也  
「花季」

的な幻想感を高めている。

記念賞の両側には、賞候補の二作が並ぶ。永津禎三「UTAKI」は暗い色調の抽象表現で、明るい坂田の作品とは対極にあり、ぐっと感情を抑え込んだしたたかさが感じられる。もう一作の有賀正季「危険な関係」はなかなか欲張った表現で粗削りではあるが若者らしい意欲があふれている。油絵を本格的に始めてからまだ二年ほどというが、昨年は岐阜県展と中部二科展で受賞している。有望な新人として期待されそうだ。

◇伊藤藤記念賞展(29日まで、名古屋日動画廊)名古屋市中区錦二ノ九(二五) 東京、愛知両芸大の美術学部長を務めた故伊藤藤氏の偉業をたたえるために両大学の教え子らによって創設された全国公募の洋画展で、ことしは二回目。四十五歳以下の洋画家を対象に、優れた新人の発掘、育成を目指している。百九十四点の応募作品から六十一点が入選した。

記念賞に選ばれたのは千葉県松戸市在住の坂田哲也「花季」。幻想絵画のホープとして注目され、既に東京セントラル美術館油絵大賞展大賞受賞歴などを持つ気鋭の画家。新進登壇というより実力派の参加であり、本展によい刺激を与えたことであろう。本人は「中部地方の出品者が

主力になっているが、全国公募だから東京から参加するの面白いだろうと思つて応募した。伊藤先生とは直接のかわりはないが、東京・築地本願寺で営まれた葬儀では東京芸大助手としてお手伝いしたことがある」と話している。

受賞作品は会場をパッと明るくするような華やかさをふりまいている。正方形の画面は緑色で縁取りされ、赤色の空間が大きく占める。花の冠をのせ、口に花笛をくわえた女性は花の精を思わせ、三角形の構図で描かれている。下辺には羽を持つ手、卵、鳥、木などを配し、左右をほぼ対称的に表現している。

鮮やかで美しい色彩による画面は春のムードがいつぱい。色の強い対比とともに、写実力の素晴らしい超現実

その他の入選作では野田龍二「夢想パティ」がガラス瓶などの質感を巧みに表すとともに宙に舞う人形を組み合わせた奇抜な構図が見る者を驚かせる。前窪幸二「蟹殻」のスーパーリアリズム、中村宗茂「哲学52家族」の着色合板を組み合わせた平面作品、上田清昭「あなたの夢みたいな話聞きあきたわよ」の色がおしゃべりしているようなアクリル絵、岡部玄「無題」の墨彩画など若い世代のコンクール展にふさわしい多彩な作品が競っている。

27日は休み。